

平成30年度
第11回新川和江賞
～未来をひらく詩のコンクール～

表 彰 式

日 時:平成31年2月10日(日)午後2時

場 所:結城市民情報センター3階多目的ホール

ごあいさつ

結城市は、ユネスコ無形文化遺産の結城紬をはじめとする伝統的な地場産業と、古くから受け継がれた文化が根付いている歴史と文化のまちです。

この歴史と文化を継承していくのは、未来を担う子どもたちです。「新川和江賞 ～未来をひらく詩のコンクール～」は、詩の創作活動を通じて、本市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与することを目的として、平成20年度に、結城市民情報センターとゆうき図書館の開館5周年を記念する事業として、詩人で名誉市民であり、ゆうき図書館の名誉館長でもある新川和江先生の名を冠して創設され、今年で第11回を迎えます。

本年度から詩人の武子和幸先生に選考委員長をお務めいただくことになり、新たな歴史が刻まれることとなりました。

本年度も、市内在住・在学の小・中・高校生を対象に、詩を募集いたしましたところ、2,060点という多くの作品の応募をいただきました。これもひとえに、関係者の皆様の深いご理解と、詩を愛する気持ちの賜物と感謝いたしております。

ご応募いただきました作品は、いずれも力作ぞろいで、受賞されました皆様に心よりお祝いを申し上げますとともに、惜しくも入選を逃された皆様におかれましても、今後ますます詩に関心を持たれ、来年もご応募いただきますことを期待しております。

結びに、皆様が詩の創作活動を通じて、個性豊かな創造力を育み、豊かな心で毎日をご過ごされますことを願い、あいさついたします。

平成31年2月10日

結城市長 前場 文夫

ごあいさつ

結城市の小・中・高校の児童、生徒の皆様、「第11回新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」に、たくさんのすばらしい詩を書いて応募してくださってありがとうございます。そして、みごと入選された方々、保護者の皆様、おめでとうございます。こころよりお祝いを申し上げます。

新川和江先生のお名前を冠した詩のコンクールがこのように毎年催される結城市の児童、生徒の皆さんは、ほんとうに幸せですね。希望にみちた未来への夢のいっぱいつまった豊かな言葉の祝祭。このコンクールには、あふれるばかりの自然と文化的伝統の息づく結城市の子ども達への新川先生の希望がこめられています。私が、選考委員長として応募作品の最終選考をまかされたとき、何があってもこの希望を引きついでいかなければいけないと思いました。

応募されたたくさんの作品を読んでいきますと、どの作品にも、たくさんの動植物や自然現象、大好きな家族との暮らしなどに注がれる生き生きとした驚きの眼差しが感じられて感動し、何度も何度も読み返しました。それは本当に楽しい時間でした。

新川和江先生がよく知られたすばらしい詩「わたしを束ねないで」は、〈わたしを束ねないで／あらせいとうの花のように／白い葱のように／束ねないでください〉で始まりますが、そこには新川先生がお育ちになった広々とした田畑の記憶やささまざまな物の名前への好奇心が生き生きと感じられます。〈白い葱〉は一本一本すべて違う個性を持っているし、見る人の年齢やその時の気分によって全く違った新鮮な姿を見せてくれます。それを束ねてしまうと皆同じようになってしまうのです。みな同じように見えては良い詩にはなりません。空はいつも同じ空のように見えますが、それを〈青い空〉という決まり切った言葉で束ねないでください。見る人それぞれの見方によって、その日の感情によって、さまざまな空が見えているはず。世の中の全ての物は、見る度に生まれて初めて見るような新しい姿で輝いています。それが新しい未来の姿です。それが詩です。詩の中で新川先生はこのようにおっしゃっているようです。これからもどうぞ自分自身が見て感じたありのままの世界を、自分の言葉で自信をもって詩に書いて下さい。

最後に、児童、生徒の詩の創作へとお導き下さった先生方、市の関係者の皆様、第一次選考に携わって下さいました「センダンの木の集い」の関和代様、山中和江様、吉田峰代様にあつくお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成31年2月10日

武子 和幸

次 第

日時 平成31年2月10日(日)
午後2時
場所 結城市民情報センター
3F多目的ホール

●オープニングセレモニー

新川和江氏作品 「花の名」の群読（優良賞31名）

●表彰式

1 開式のことば

2 主催者あいさつ

3 来賓あいさつ

4 選考委員長あいさつ

ー武子和幸氏プロフィールー

昭和13年（1938年）東京都に生まれ茨城県日立市で育つ

ひたちなか市在住

（一社）日本詩人クラブ元会長

茨城県芸術祭文学部門実行委員長

5 表彰

6 選考委員長講評

7 第11回受賞作品朗読

優秀賞（9名）

新川和江賞（1名）

8 閉式のことば

●受賞者氏名

☆新川和江賞（最優秀賞）

あっ来た。ヤモリ

山川小学校 2年 ながい永井 ここみ心海

☆優 秀 賞

なつのくだものたち

結城小学校 1年 や つつか八ッ塚 ゆづき結月

えがお

城西小学校 1年 うえの上野 はるき春樹

ぼくのカラフルな気持ち

城南小学校 3年 いわさき岩崎 れお怜旺

ひまわり

結城西小学校 3年 とさか登坂 ゆうせい悠生

「お母さんの手」

山川小学校 4年 ながい永井 ゆづき優月

一皮むけたぼく

城南小学校 5年 うしおだ潮田 れんと廉人

降った雪

結城南中学校 2年 おおくほ大久保 あやね采音

いもうと

結城第二高等学校 2年 やぐち矢口 まいか舞夏

写真を撮って

結城第二高等学校 2年 ゆあさ湯浅 なぎさ渚

☆優良賞

おにわのすいか

結城小学校 1年 まきの牧野 あおい蒼

スイカ

結城西小学校 3年 たかはし高橋 りな里菜

はなび

城西小学校 1年 かわら河原 まさき真咲

雨

絹川小学校 4年 やじま谷島 しほ志歩

かくれくまのみ

城西小学校 1年 ひろせ廣瀬 さえ牙

カヌー

江川南小学校 4年 いしざき石崎 なつき夏葵

たいようさま

城西小学校 1年 やまなか山中 ちひろ千博

花

結城西小学校 5年 いしつか石塚 ひな妃菜

ころころダンゴムシ

江川北小学校 2年 くるくい黒杭 みさき美咲

けしごむ

結城西小学校 5年 うえの上野 なつも夏萌

ふしぎなせかい

江川南小学校 2年 すずき鈴木 りこ璃子

夕顔の実

結城小学校 6年 いいた飯田 けい啓生

ぼくとじいじの思い出

山川小学校 2年 ながい永井 まさき雅輝

空と雲

結城小学校 6年 こにし小西 ようた陽泰

わたしはわたし

結城西小学校 2年 ながた永田 あやめ

「ピンクの夕焼け」

結城小学校 6年 みやもと宮本 みゆ

夏のセミ

結城小学校 3年 いいの飯野 ひろと大翔

新鮮な海を泳ぐ魚

江川北小学校 6年 かわまた川股 せいや惶也

川の水

江川北小学校 3年 いいむら飯村 あにい愛仁衣

足音がする

上山川小学校 6年 いわた岩田 ひろむ大夢

生きる

結城西小学校 6年 さかもと ゆうと
坂本 裕星

お・ば・け・も・の

結城西小学校 6年 さくま ひとみ
佐久間

わたし

結城西小学校 6年 しまだ ここね
嶋田 木々音

風の語り手

結城中学校 1年 あおやま ぜんき
青山 善輝

青葉が見た景色

結城南中学校 2年 いしじま はると
石島 帆人

無数の足音

結城東中学校 2年 あんと き めい
アントキ メイ

僕らの未来

結城東中学校 2年 いいじま けいた
飯島 啓太

一つだけの魔法

結城南中学校 3年 あかいわ りせ
赤岩

感情ばかり，気持ちばかり

結城第二高等学校 1年 いなば あやね
稲葉 彩弥

過去 現在 未来

結城第二高等学校 3年 ばば まりの
馬場 毬乃

涙の理由

結城第二高等学校 4年 なまい あやの
生井 綾乃

優秀賞

なつにくだものたち

結城市立結城小学校 一年 八ツ塚 結月

しゅらしゅら

おおきくてびっしりまっかなすいか

ぶちっぶちっ

しゅがとおおきくてきれいなむらさきいろのぶどうたち

しゅしゅしゅ

みためがかわいいびんくいろのかわいいすがたのもも

ぶねぶねしゅ

まつすべのびたつのとあみのどねすがかっこいいおうた

まめろん

なつがゆうがたすずしいじかん

ひかひかのがらすのうつつわでくだものたちがだんすをし

ていしゅん

ぶるーっぽんちができたよ

あいらみあいらひかるほうせきみただね

短評 優秀賞「なつにくだものたち」

「なつにくだものたち」は、夏（なつ）の季節（きせつ）をテーマ（てま）にした（した）短歌（たんか）集（あひらき）です（す）。作者（しやうしや）は（は）、結月（むすつき）さん（さん）です（す）。この（この）短歌（たんか）集（あひらき）は（は）、子ども（こども）たち（たち）が（が）自分（おんが）たち（たち）の（の）観察（くわんさつ）力（りき）を（を）発揮（はきし）して（して）書（か）いた（いた）短歌（たんか）です（す）。作者（しやうしや）は（は）、自然（しぜん）の（の）美（うつくし）しさ（しさ）を（を）感じ（かんじ）て（て）書（か）いた（いた）短歌（たんか）を（を）たくさん（たくさん）書（か）いて（いて）います（います）。この（この）短歌（たんか）集（あひらき）は（は）、とても（とても）面白（おもしろ）い（い）です（す）。作者（しやうしや）は（は）、子ども（こども）たち（たち）の（の）想像（さうぞう）力（りき）を（を）高く（たかく）評価（ひやうか）しています（しています）。この（この）短歌（たんか）集（あひらき）は（は）、とても（とても）素晴らしい（すばらしい）短歌（たんか）集（あひらき）です（す）。

優秀賞

えがお

結城市立城西小学校 一年 上野 春樹

えがおでいねばね、いやなことをわすれちゃうよ。

えがおでいねばね、かなしいこともわすれちゃうよ。

えがおでいねばね、なみだまですみえちゃうよ。

えがおでいねばね、じぶんもしあわせになねるよ。

まわりもしあわせにできるよ。

わたしの「えがお」だよ。

だってだって、わびしいことをみえとせえがおが

うしろをうしろ

えがおでいねばね、まじいえがおがあつていいから。

えがおでいねばね、まじいことがあつて。

ほへほ、みんなをえがおでいねばねとだ。

だからほへほ、まじいえがおでいたいんだ。

短評 「優秀賞」えがお

うねのうねのえがおのまわりにも、たぐやのえがおがあつて、
でせうね。かなしいことをおぼえて、おぼえて、みんなが
なつて、まねでえがおの花がさいたよ。

びりううとでも「のうね」お、は、た、た、た、た、た、た、た、
ますが、えがおの「おへお」お、ま、た、た、た、た、た、た、
なおしてくれるんですね。えがおをわすれかけた世のなか、
えがおの「えがお」を「えがお」をわすれかけた世のなか、
へんてんてん。

優秀賞

ひまわり

結城市立結城西小学校 三年 登坂 悠生

ほきりとおれたひまわりのくき
なげたボールが当たってしまった
下に落ちたくきの先には
かなしそうな小さな葉
ごめんね ごめんね ごめんね ひまわり
ほくは心の中であやまった

しばらくたって
おれたくきのところに新しい葉
うれしくなってよく見ると
小さなつぼみも顔を出していた
もう花はさかないと思っていたのに
強いね ひまわり
すごいね ひまわり

また少し日がすぎても
ひまわりはとうとう花をさかせた
ごめんねって言ったほくへ
だいじょうぶだよって わらっているみたい
やさしいひまわり

ほくもひまわりみたい
強くてやさしい人になりたい

短評 「優秀賞」ひまわり

登坂君はほんとうにやさしい、すなおなこころをまっとうしているのですね。詩をよんでいて感心しました。なげたボールがひまわりに当たって、くきがおれて、小さな葉をつけたままじめんにかなしそうにたわっているのを見たとき、どれほどこうかいし、すまない気持ちでいっぱいになったんですよ。ひまわりにもたいせいなものがあふんじをみく知っているからですね。だから残ったくき「小さな葉が出て、つぼみが顔を出し、だいじょうぶだよと笑ってゆるゆるくれるわう」「花をさかせたよきのまうこびはどんなものだったでしゅう。私もつれていっていいました。それだからいせ、登坂君は、いのちを大切にするとみくって、やさしい人になろうと心にきめたのですね。自然のなかでたいせいなことを学びましたね。

優秀賞

「お母さんの手」

結城市立山川小学校 四年 永井 優月

お母さんの

左側はお兄ちゃん

右側は私

お腹の上には妹

小さいときは、ねむくなるとお兄ちゃんと私の手をにぎって
くれていた

お母さんの手

今はねむくなると、背中をなでてくれる

お兄ちゃんは、モミモミマッサージのおねだり

妹もいっしょにモミモミ、「チョヨ」チョ

くすぶったくて大笑い

私もお母さんの痛い足をなでなで

「ニコニコ」笑顔で「ありがとう」がとてもうれしい

お母さんの手があたたかくて、スヤスヤねむくなってる
なんだか心がほっとする

ずっと、毎日、毎日

ずーっと

なでなでしてね

お母さん

短評 優秀賞「お母さんの手」

なんとあたたかな家族の姿でしょう。心がほっとして安らいだ気持ちになりますよ。お母さんが手をにぎってくれたり、なでなでしてくれたりする
ときの手のあたたかみ、<モミモミ>、「チョヨ」チョヨには、私たちも体がくす
ぶったくなってニコニコ顔です。それに子どもたちのやさしさ。心のそこか
ら安心した幸せな気持ちになります。それは、お母さんを中心に左側にお兄
ちゃん、右側に私、真ん中のお腹のうえに妹とこう絵にえがかれたまじな
ぶのふたごのなご安定した家族の姿が見えるかの。お母さんが回廊の子供
たちを、お腹の上の妹のほっぺをさして引寄せはせる姿を想像していらしたな
み。みんなここにいてしまっただけの中、誰か話しかけが見えてきますね。
さしまででも仲良く幸せに。

優秀賞

一皮むけたぼく

結城市立城南小学校 五年 潮田 廉人

「ねーもー帰ろうよ」

言っても言っても母と姉は知らんぷり
じわりじわり前におされる

「ゴォー」「ガガガ」「キヤー」

さけび声とジェットコースターの「ごうおん
ぼくを追いつめる

じわりじわり前におされる

とうとうきてしまった

もうにげられない

ぼくはワナに引っかかったネズミだ

ポロポロポロポロ 男だって泣くん

ガガガビューン前におされる

グルングルン ガタンガタン

ぼくはせんたくきの中のタオルだ

目をぎゅっつつぶった

早く終わってくれ

止まった！

何にかわからないけど勝った気分

何か強い自分になったみたい

次の日生まれて初めて満塁ホームラン
ジェットコースターのおまじないかな

短評 優秀賞「一皮むけたぼく」

はじめてジェットコースターに乗ったのだね。列に並んでいるときが一番
こわい。運命のその時まで、なにか大きな力にじわりじわり押されるように
進んでいく。がまんしていても体が小さくふるえる。さけび声と「ごうおん」が
いっそう恐怖をあげる。そんな気持ち、よく分かるよ。へわなに引っかかった
ネズミだ。へせんたくきの中のタオルだ。すごい表現だ。すごく感じがでて
いる。それに怒られるかもしれないがなんとなく面白い。そして、ついに試験
は終わった。これで一人前の強い「ぼく」になった。昔々、子供はこのよう
な試験を乗りこえて、一人前の大人になる成人式のような儀式があった。潮
田くんも乗りこえた。満塁ホームランがその証拠。頑張れ。

優秀賞

降った雪

結城市立結城南中学校 二年 大久保 采音

しゅしゅしゅ

ゆっくり降ってきた雪は

あっという間に広がって

一面真っ白雪景色

そのあとさくさく足音が

子供が一斉に飛びだして

楽しい声で外いっぱい広がった

子供が遊んで去ったあと

またしゅしゅしゅ

雪積もり

子供の足跡消えてい

短評 「優秀賞」降った雪

具体的には書かれていませんが、おそらく放課後のグラウンドか公園の雪景色でしょうね。しかし、どこの場所かという点とは作者にとってはあまり重要ではなさそうですね。もっと大切にしたいことは、雪が降り続いて、あたりはあつというまに真っ白になり、そこにとこから来たのか分からない、どこの子ともわからない雪の精のような子ども達がたくさん現れて、ひとときりにぎやかに楽しく遊ぶ声が出て、子供たちが立ち去ったあと、雪はその足あとを消しながら静かに降り続けているというどこか神秘的な印象なのです。たしかにそこにあつたり、いたりしたの「しゅしゅしゅ」と見るとなにもない白い広がり。自然の深い静けさと不思議さがよくとらえられていて感心しました。

優秀賞

いもひやし

茨城県立結城第二高等学校 二年 矢口 舞夏

うるやう
すべに泣く
ちよこまかするし
私の物で勝手に遊ぶし
私のお菓子も食べちゃうし
テレビはアンパンマンじゃないと怒るし
勉強の邪魔するし…
ついでこの前は学校からの大切なプリント
ぐっしょぐっしょに落書きされた
でもね
「ねえねだいいしゅきー！」
って抱きついてくるの
えへへへ
可愛いでしょひやし
私の妹

短評 「優秀賞」 「いもひやし」

矢口さんの家族の一員になって、ここにしながら矢口さんの温かな愚痴を傍で聞いているような楽しい気分になる詩ですね。妹への深い愛が感じられて、それが何よりも良いところです。

難しい所はどこにもなへ、さらさらと書かれているようにでも、丁寧に読むととても注意深く書かれています。何よりもまず、行の長さが、読み進むにつれて少しずつ長くなって行って、真ん中辺りになるともう息が切れそうですね。高まっていく感情と言葉と呼吸とが互いに密接に結びついていて、学校のプリントがぐっしょぐっしょと言うところでは、もう最高点。それが妹の可愛いひびく言葉で愛おしみが高まっていくにつれて、言葉もだんだん短く穏やかになってくる。詩の心地よいリズムとは、七五調などの形式的なものもありますが、心の高ぶり、静まりなものの内的な感情のリズムでもあるのですね。それをどうもへへ心奪って書かれています。

優秀賞

写真を撮って

茨城県立結城第二高等学校 二年 湯浅 渚

携帯で一枚ずつ写真を撮りました
狙いを込めて慎重に
全ての主役を澄んだ空にして
自分の思い通りに切ります
青の空、夕焼けの空、月と星の空
同じ空なのに違います
私は不思議に思いました
携帯で一枚だけ写真を撮ります
ある日偶然見つけた
青く青く濃い空の端に写る
意識しなかったから見えた
電柱、山、雑草、数え切れない
ただの背景だけど美しかった
あの日の景色をもう一度撮りたくて
今日も私は探したい

短評 「優秀賞」写真を撮って

湯浅さんの詩を読んだとき、不意に、新川和江さんの詩「いちまいの海」を思い出しました。私の大好きな詩で、そこに「その海に／溺れもせず／わたし／が釣り合ってたゆめたのは／（略）／けざやかに引かれた喫水線をわたし／が持っていたからだ」という詩行があります。海が、詩人の抑えがたい激しい感情だとすれば、その感情に溺れないように、沈没しないように釣り合いを取っているのは理性の喫水線だ、ということのようですね。

湯浅さんの詩は、写真を撮るとき慎重に構図を意識してシャッターを切ったのに、出来上がった写真の片隅には意識もなかった背景が写っていて、そちらのほうの美しさに感動して、今度はそれを求めて撮り続けよう、という詩ですが、湯浅さんは、芸術の不思議に気づいたのですね。あれこれ考え、意識して創作しようとしても、芸術は、独自の生命を持つ生き物のように、自由に、思いがけない所に思いがけない美しい姿を現したりするし、だからといって意識をせずに偶然に身をまかせても、混沌の海に溺れてしまってもいけないということ。気ままな感情、本能、偶然の海と釣り合いを取る理知、理性の喫水線の関係、それをどうするかは湯浅さんがこれから考えていく問題ですね。

優良賞

おにわのすいか

結城市立結城小学校 一年 牧野 蒼

おにわのはじで そだてたすいか
カラスにたべられないように
はっぱでかくした だいじなすいか
おひさまいっぱいあびたから
びかぴか まんまる かわいいすいか
「もういいかい?」
「まあただよー!」
おいしくなるまでかくれんぼ
みどりがふかーくなったらね
おじいちゃんが
「もういいよー!」
みどりとあかでクリスマス
とってもあまい なつのあじ
まなつのクリスマスプレゼント
らいねんもいっしょにそだててね
かくれんぼだよ
おじいちゃん

優良賞

はなび

結城市立城西小学校 一年 河原 真咲

よるのおそらに
はなびがあがる
どーん どーん
おおきなおとだ
あかいはなびは
ばらみだい
きいろいはなびは
たんぽぽみだい
むらさきのはなびは
あじさいみだい
いろんなはなが さいてるね
そらがまるで
おはなばだけみだいだね

かくれくまのみ

結城市立城西小学校 一年 廣瀬 牙

かくれくまのみはね
いそぎんちやくにかくわるよ
かくれくまのみはね
いそぎんちやくのどくもへいきなんだよ
だからかくれくまのみと
いそぎんちやくは なかよこつてじつだね
かくれくまのみはね
くろくしろとおねんじいろのからだだよ
いそぎんちやくのいろはしろだよ
かくれくまのみはね
おおきいぼうがおかあさん
ちいさいぼうがおとうさんだよ
かくれくまのみは
いそぎんちやくのなかにはいつていろじきは
どんなかんじなのかな
ふわふわしていてきもちよみそつだね
わたしもいそぎんちやくのなかにいきたいな

たいようさま

結城市立城西小学校 一年 山中 千博

おーい。たいようさま
どうしてそんなにがんばっているの？
それともおこっているのか？
そんなにもえてなくならないの？
すこしはやすんだらどう？
ぼくはとってもあついんだ
がっこうのかえりみち
たいようさまはぼくをひろくひろくひろく
ぼくをじんじんとひろくひろくひろく
あー。のどがかわいた。
すいとつのもう。
あー。からっぽだ。
あー。じめんがゆらゆらしている。
あー。のどがかわいたよー。
そんなにいじめるなら
いなくなっちゃえばいい
あれ？きょうはあめだ
たいようさま くものうさでなっているのかな
あしたはあいたいな

優良賞

いじりたんぽムシ

結城市立江川北小学校 二年 黒杭 美咲

いじりたんぽムシ

たんぽムシ

あれ、とまったよ。

あっ、ひらいた。

くるとまわって

ちゃくちせいじじ。

あるまじい

とつてもはやい。かべにぶつかり右左

いじりたんぽムシ

やわったじ、

またまるくなったよ

おもこつていじりたんぽムシ

いじりたんぽムシ

優良賞

ふしぎなせかい

結城市立江川南小学校 二年 鈴木 璃子

ドキドキしながらのぞいてみた

キラキラ光るガラスのせかい

クルクルまわすとかわるせかい

パッとひらいてシュッととじる

カラフルなほう石が作るお花ばだけ

わたしはその小さなあなの中に入ってみた

ふしぎなせかいのひみつをしるために

つゆがきらめく雨上がりのアジサイ

大きくさいたまっ赤なハイビスカス

ちらばったクレパスみたいなチューリップ

ふしぎなせかいはつぎつぎにかわり

どこまでもどこまでもつづく

ますますなぞはふかまるばかり

ゆっくりゆったりとした時間がながれる

このせかいのまほうにかかったみたい

げんじつのせかいにもどったわたしは

ふとあたりを見た

何もかわらないいつものへや

また行こう

ちよっとひと休みして

小さなあなから

ふしぎなせかいへ

優良賞

ほへじじの思ふ田

結城市立山川小学校 二年 永井 雅輝

あっ、ながれてきたよ大すきなそうめん。

じいじが竹で作った、ながしそうめん。トマトもながれてきたよ。

じいじがやいてくれたバーベキューのおにくおいしかったです。

じいじのひびにすわって見た花火もとてもきれいでした。まいとし、夏がくるのがたのしみでした。

じいじの家には大きな大きなもみじの木があります。あきになると真っ赤になっておちてきます。それをじいじとほらきで、おちびはきをします。じょうずだねとじいじは、いつぱいほめてくれます。うれしくてもっとおついでをしようと思いました。

じいじは、木でいろんなものを作るのがとくで、ぼくには、木の車を作ってくれました。今もだいじにとつてあす。

いつぱい思い出はあるけど、みんな、たのしかったです。わすれないからむ。

天国のじいじ。

優良賞

わたしはわたし

結城市立結城西小学校 二年 永田 あやめ

わたしはわたし

おなかの中にいる時からわたし

生まれてからもわたし

小さくてもわたし

大きくなってもわたし

ウキウキしている時もわたし

どんよりしている時もわたし

お母さんになってもわたし

おばあちゃんになってもわたし

ひいばあちゃんになってもわたし

しんでもわたし

どんな時でも

わたしはわたし

優良賞

夏のセミ

結城市立結城小学校 三年 飯野 大翔

ミーン、ミーン
ミーンミンミンミンミー
ジージー、ジージー
ツクツクボウシ、ツクツクボウシ
短い夏の間だけ
ひっしに鳴いているセミたち
なにを思って鳴いているのかな？
おなかですいているの？
お父さんお母さんをさがしているの？
お友だちをよんでいるの？
カナカナカナカナ
ジジジジジ、シリシリリ・・・
もうすぐ夏が終わる

優良賞

川の水

結城市立江川北小学校 三年 飯村 愛仁衣

水がどんどんながれてゆく
魚といっしょにながれてゆく
きれいな音でながれてゆく
シャラシャラシャラと
ながれてゆく
川の水
きれいな水
きれいな色でながれてゆく
葉っぱといっしょにながれてゆく
どんどんどんどんながれてゆく

優良賞

スイカ

結城市立結城西小学校 三年 高橋 里菜

スイカのなえを植えた
あまくて おいしい スイカになあれ
つるがのびて 黄色い花がたくさん咲いた
あまくて おいしい スイカになあれ
はちが 花のみつをすっていた
あまくて おいしい スイカになあれ
ちいさな スイカの赤ちゃんができた
あまくて おいしい スイカになあれ
スイカの 赤ちゃんが少し大きくなった
ぐんぐん ぐんぐん 大きくなあれ
ぐんぐん ぐんぐん 大きくなあれ
あまくて おいしい スイカになったかな

優良賞

雨

結城市立絹川小学校 四年 谷島 志歩

ポタン ポタン
ジャー
雨の帰り道
「葉っぱくん 今日もきれいだね」
という声が聞こえてきそう
「そう？かたつむりくんもきれいだね」
葉っぱがしゃべると
会話が始まってきた
「かえるくんもきれいだね」
ほかのこもきて
「雨もかがやいているね」
とにぎやかになっていった
雨がやむと
「雨 やんちゃったけど 見てー！」
そこにはにじができていた
「にじ きれいだね」
と言った声が最後に聞こえた

優良賞

カヌー

結城市立江川南小学校 四年 石崎 夏葵

わたしは、この夏初めての体験をした

家族旅行で、カヌーに乗った

3人乗りのカヌー

だれと乗ろうか？みんなでそうだんした

お姉ちゃんと、弟と、自分で乗った

一番前はわたしでまん中は弟 一番後ろは

お姉ちゃんに乗ることになった

カヌーの色は赤だった

わくわくした、最初はうまくいかなかった

でもどんどんうまくなっていってこぐのが楽しくなった

そしたら弟に水をかけられた

その水はつめたかった

お父さんたちが乗っているカヌーを見ると妹がねていた

すると、お父さんたちが乗っているカヌーが

こっちに向かってきてぶつかりそうになった

カヌーを下りて空をみ上げると空はきれいだった

優良賞

花

結城市立結城西小学校 五年 石塚 妃菜

昼休み、校庭に出ると、

花だんに花がさいていた

チューリップやパンジーなどの

きれいな花がたくさんさいている

花をしばらくながめていると、

心地良い、優しい風がふいてきた

花のダンスパーティーが始まった

花だんにさいた花たちは、

いっせいにおどりだした

赤やむらさき、黄色の

きれいなドレスを着て、

てんとう虫やちょうの、

かわいらしい宝石をつけて、

みんな仲良くおどってる、

風がふき終わると、

花たちのダンスパーティーは終わった

私もあんなにきれいなドレスを着て、

あんなにかわいい宝石をつけて、

花たちといっしょに

おどってみたいなあ

優良賞

けしごむ

結城市立結城西小学校 五年 上野 夏萌

けしごむはえんぴつで書いた所を
消してくれる物

便利で使いやすいよね

でも私は思うんだ

心のキズや私の悪い所も

消してほしいな

もし消せたら友だちともっとなか良く

なれるかなあ

でも消えないんだなあ

心のキズや私の悪い所は

自分で直して行かなきゃな

それが人間だと思うよ

自分でなんとかしなきゃ

けしごむは

心のキズや悪い所は消せないけど

まちがえて書いた物が消せる便利な物

優良賞

夕顔の実

結城市立結城小学校 六年 飯田 啓生

やさしい黄緑色の夕顔の実

さかさまにくしにさされて

すごいいきおいで機械からとび出してくるたくさんの

ハチマキたち

一日中風にゆられるハチマキ

真っ白いハチマキのカーテン

まっすぐだったハチマキは

ぐるぐるくねくね一日がん張って

ぐったりつかれたハチマキに

かんぴょうってこれなの？

空と雲

結城市立結城小学校 六年 小西 陽泰

空と雲って何だか不思議
だって雲は自由にすがたを変える
羊雲とか、うろこ雲とか
だれも羊雲になれ
なんて言っていないのに
でもだれかが言わなければ
ならないんじゃないかな
わざわざきれいに整列して
羊雲とかうろこ雲を作らないと思う
もしかしたら空が言っているのかな
空のきげんが悪ければ
雲は雨雲になるようになって
言うのかな
なんか空と雲って関係があるのかな
なにかでつながっているのかな
空ってえらいのかな
空と雲って何だか不思議

「ピンクの夕焼け」

結城市立結城小学校 六年 宮本 みゆ

ある日、ふと空を見上げた
屋根の上がピンクにそまっている
急いで二階にかけ上がった
やっぱり、きれいなこいピンク色
私の心も、きれいなピンク色になった
夕焼けの色って、何色？
赤かオレンジ
でも、今日は、ピンク!!
不思議だけれど、何だかうれしい
明日は、いいことがあるそう・・・
毎日、夕方になると空を見上げる
ピンクの空は、もう三回目
ながめていると、心がほんわか温かい
だんだん、うすいピンクになり消えていく
今日のイヤなこと消えていった

優良賞

新鮮な海を泳ぐ魚

結城市立江川北小学校 六年 川股 惺也

今吹いている新しい新鮮な風は
海をやさしく揺らしている
やさしい波が魚を運んでいる
魚はうれしそうに運ばれていく

今度は強い風が吹いてきた
波の動きが激しくなっていく
魚はじっと耐えている
嵐が去るのを待っている

強い風がだんだんやんできた
激しい波もだんだんおさまった
嵐が去っていった
魚はうれしそうに笑った

朝日がやさしく照らしました
波も穏やかになってきた
やっぱり新鮮な海だ プクプクプク
今日はどこにお散歩に行こう

優良賞

足音がする

結城市立上山川小学校 六年 岩田 大夢

いつものように外にでて歩いている
とくとくとくと
足音をたてながら歩いている
道をとくとくと
足音をたてながら歩いている。

とつぜん、後ろからとくとくと
足音がきこえてきた
後ろをむいたらだれもない

なんでだろ
ぼくは足音をたてながら走っている
スタタタ・・・と、けれど
後ろからずつととくとくとと
足音がきこえる

ぼくはこわくなってきました。
スタタタタタビューンと、
ぼくは家にかえってすべふとんの中でねた。

優良賞

生きる

結城市立結城西小学校 六年 坂本 裕星

テレビのニュース くぎづけで見た
変わらない毎日が 数分でいっぺんして
信じられない世界が広がっていた
僕は目をそむけたい気持ちになったけど
しっかり 目を開けて見た
なみだがでてきそうになる
あふれそうな 気持ちをおさえて
テレビの前 ひざをかかえて見た
次の日も 次の日も・・・
なにか 出来ないだろうか？
僕は毎回 悲しいニュースに
僕はみづめなおす
無力だけど わずかだけど
よりそう気持ちを 大切に
明日へとしっかり進むんだ
毎日が来ることに 感謝して
僕は 生きていく

優良賞

お・ば・け・も・の

結城市立結城西小学校 六年 佐久間 ひとみ

おばけもの
バケモノに「お」を付けてみた
おバケモノにしてみると
こわくなくなった
おばけものは「お・ば・け」
バケモノは こわいもの
化けて出る ようかい
とってもおそろしい
でも おばけものは バケモノじゃない
おばけものは 「お・ば・け」
おばけものは こわくない
私のことを 見守ってくれる
助けてくれる
そっと応援してくれる
バケモノとおばけは
全然ちがう
おばけもの おばけもの
おばけものは バケモノじゃない
おばけものは 「お・ば・け」

優良賞

わたし

結城市立結城西小学校 六年 嶋田 木々音

マイペースなわたし、おだやかなわたし
人見知りなわたし、出しゃばらないわたし
おくびょうなわたし、慎重なわたし
わたしはわたしを好きじゃない
でも、妹はわたしと遊びたがる
お姉ちゃんは発想が面白いと言ってくれる
おばあちゃんはイイ子だねと言ってくれる
お母さんはいやされると言ってくれる
お父さんは自分で考える力があると言ってくれる
わたしは自分で思っているより頑張ってるのかも
わたしの良いところがいろんな人に伝わるように
わたしがわたしの好きなおところを言えるように
もうちょっと自分を好きになって頑張ってみようかな

優良賞

風の語り手

結城市立結城中学校 一年 青山 善輝

風が僕に語る
草木をふるわせ波に乗り
羽ばたく鳥の音になれと
風が僕に語る
あの子の髪の毛をなびかせ
僕の心は透き通る
風が僕に語る
砂を舞上げ
自由な空へと誘いかける
風が僕に語る
僕の背中おし
白紙の地図になるように
風が僕に語る
僕は風に答える

優良賞

青葉が見た景色

結城市立結城南中学校 二年 石島 帆人

青葉が見た高い景色

固く長い物が並んで見えた

青葉が見たあたたかい景色

花々が風とともにゆらゆらしていた

青葉が見た暑い景色

虫の音がかゲロウとともに響きあった

青葉が見たすずしい景色

友達が風にのって散ってゆく

青葉が見た見にくい景色

しかいにうつらない白は色を消していく

うつすら落ちる自分自身

自身はもう青葉ではない

かれ葉が見た最後の景色

それは見ることでできないさびしい景色

戻りたくても戻れない

悲しくて

びんごくな

時の導き

優良賞

無数の足音

結城市立結城東中学校 二年 アントキ メイ

道や土やじやりを歩く無数の音

どれだけの時間でこの音を聞くのだろう

道を歩く音は計りしれない音だ

いわば楽器

歩けば歩くほどどんどん音がかなでる

一人や大勢の人でも

かなでる無数の音

聞けば聞くほどいい無数の足音だ

道を歩くことがとてもいい無数の

かなでる良い楽器だと

優良賞

僕らの未来

結城市立結城東中学校 二年 飯島 啓太

僕らは何かに向って生きている
それが限りあるものなのか
または果てしないものなのか
そのことについて誰も知らない
分かっていることは
僕らの先にあるということだけだ
その「何か」は
自分だけにしか触ることはできない
僕らの在り方生き方しだいで変化する
「何か」を知るためには
そう 自分で道をつくり
自分の力で手に入れなければならない
しかし「何か」を手に入れたあとも
その道が終わることはない
自分だけの「何か」が存在する限り
僕らの未来は在り続ける

優良賞

一つだけの魔法

結城市立結城南中学校 三年 赤岩 りせ

笑顔はね
人の心や周りの空気を変える
魔法だよ
今日もあの子はふりまいてる
キラキラと輝いて
他の子もつられて
魔法を使ってる
一つだけ魔法じゃないのが見えた
あの子は笑ってる
でも、輝いてない
本当の笑顔じゃないから
きつと無理をしているんだ
辛い時は、泣いてもいいんだよ
その後、魔法を使えばね
ほら前を向いて魔法見せて
今日もあの子は笑ってる
キラキラと輝いて
君も魔法を使ってるね

優良賞

感情ばかり、気持ちばかり

茨城県立結城第二高等学校 一年 稲葉 彩弥

何を言えばいいか分からない
死にたいと言う君に
私は何と言うのが正解なのか
死なないでと
生きてと
いつもこの言葉ばかり
君を助けない
君の力になりたい
そう願うだけで
現実は何もできない非力な人間だ
感情ばかり先走り
心がつらいと悲鳴をあげる
気持ちばかり先走りの
言いたいことも言えなくなる
あの時 私は
何と言えはよかったの

優良賞

過去 現在 未来

茨城県立結城第二高等学校 三年 馬場 毬乃

今ここ私は過去につながる
過去のために今がある
あのときのもやもやも晴れて
ストーンと腑に落ちる時が来るかもしれない
その一瞬のために
今ここ私は未来につながる
未来のために今がある
ありきたりかもしれないけれど
未確定なことだとしても
どこかの一瞬のために
過去があるから未来があって
だから今ここ私がいて
未来は今に 今は過去になっていく
だとしたら
いつか来るその一瞬のために
今ここ私は今につながる
今のために現在がある

優良賞

涙の理由

茨城県立結城第二高等学校 四年 生井 綾乃

息をひそめるみたいに
水色が散る 雨が降る
誰の涙の代わりなのか
それは今日も止まなくて
空に連れ出されたくなつたんだ
この、どこかで泣いてるあなたのこと

長靴をはいた猫なんかじゃなくて
スニーカーはいた ただの人間だけど
この手を取ってみてくれないか

そのまま大空へ！ しっかりつかまってる
感情乱気流があばれてるけど
それすらもジェットに変えて

「泣かないで」なんて言わないよ
君が君自身のために これだけ悲しめる証を
僕はバカになんてしない
恥じることも 隠すこともないさ

でも
それを分かってくれる人だけじゃないし
ほら、雲の上！
ここなら思い切り泣けるでしょう？

弱気になるなら 弱気になって
それだけ痛いことだったんだから
仕方ないだろう
僕は全部聞かし、突き放しもしないからね
さあ 聴かせてよ 君の涙の理由をさ。

—新川和江氏について—

- 昭和 4 年（1929） 茨城県結城郡絹川村（現結城市）小森に生まれる。
- 昭和 19 年（1944） 詩人の西条八十氏に師事。
- 昭和 28 年（1953） 第一詩集『睡り椅子』を出版。代表的な詩集に『ローマの秋・その他』、『ひきわり麦抄』、『星のおしごと』等多数。
- 昭和 35 年（1960） 『季節の花詩集』で小学館文学賞受賞。
- 昭和 40 年（1965） 『ローマの秋・その他』で室生犀星詩人賞受賞。
- 昭和 56 年（1981） 日本現代詩人会理事長就任（～1982）。
- 昭和 58 年（1983） 女流詩人による季刊詩誌、「現代詩ラ・メール」を創刊。
日本現代詩人会会長就任（～1984）。
- 昭和 59 年（1984） 結城市民栄誉賞受賞。「結城市民の歌」作詞。
- 昭和 62 年（1987） 『ひきわり麦抄』で現代詩人賞受賞。
- 平成 4 年（1992） 『星のおしごと』で日本童謡賞受賞。
- 平成 6 年（1994） 『潮の庭から』で丸山豊記念現代詩賞受賞。
- 平成 10 年（1998） 児童文化功労賞受賞。『けさの陽に』で詩歌文学館賞受賞。
- 平成 11 年（1999） 『はたはたと頁がめくれ…』をはじめとする全業績に藤村記念
歷程賞受賞。
- 平成 12 年（2000） 勲四等瑞宝章叙勲。『いつもどこかで』で産経児童出版文化賞
JR賞受賞。
- 平成 13 年（2001） 結城市名誉市民となる。
- 平成 16 年（2004） ゆうき図書館名誉館長就任。
- 平成 19 年（2007） 『記憶する水』で現代詩花椿賞受賞。
- 平成 20 年（2008） 『記憶する水』で丸山薫賞受賞。
結城市民情報センター及びゆうき図書館開館 5 周年記念事業
として「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」を創設。
- 平成 22 年（2010） 日本現代詩人会名誉会員。
- 平成 24 年（2012） 石像「野の花ちゃん」を寄贈。結城紬大使就任。

—新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～について—

[目的] 結城市出身の女流詩人新川和江氏による「詩」の創作活動の指導を通じて、結城市の文芸振興を図るとともに、積極的に未来に向かう創造性豊かな青少年の育成に寄与する。

[募集作品] 自由題の未発表詩

[応募資格] 結城市在住、在学の小・中・高校生

[選者] 最終選考 新川和江（第1回～第10回）
武子和幸（第11回）
事前選考 関 和代・山中 和江・吉田 峰代

[経過]

- 平成 16 年度（2004） 新川和江選「未来をひらく詩のコンクール」開催
（結城市制 50 周年記念及びゆうき図書館開館記念事業）
●募集作品：「私（わたくし）が大人になったら」・「私（わたくし）のふるさと」のいずれかを題材とする
●応募資格：結城市及び隣接市町村在住の小・中・高校生
●最優秀賞：「わたしのふるさと」
児矢野 千穂（三和町立大和田小学校 2 年）
- 平成 20 年度（2008） 第 1 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
（結城市民情報センター・ゆうき図書館開館 5 周年記念事業）
●新川和江賞：「あまいみをならしてね」 海老澤 匡希（山川小学校 2 年）
- 平成 21 年度（2009） 第 2 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「夏」 向田 浩哉（結城小学校 5 年）
- 平成 22 年度（2010） 第 3 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「ランドセル」 野呂瀬 早紀（結城小学校 1 年）
- 平成 23 年度（2011） 第 4 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「石」 藤野 里菜（結城東中学校 2 年）
- 平成 24 年度（2012） 第 5 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「日記詩」^{にっきゅうた} 海老澤 朋代（結城南中学校 1 年）
- 平成 24 年度（2012） 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」5 周年記念誌発行

- 平成 25 年度 (2013) 第 6 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「変わらない日々」 宮田 和佳奈 (結城東中学校 2 年)
- 平成 26 年度 (2014) 第 7 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「やさい」 永田 美穂 (山川小学校 2 年)
- 平成 27 年度 (2015) 第 8 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「風のふで」 山田 明依 (城南小学校 3 年)
- 平成 28 年度 (2016) 第 9 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「河原の石」 浅利 直弥 (結城小学校 6 年)
- 平成 29 年度 (2017) 第 10 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「伝統の田植え」 須藤 啓太 (城西小学校 5 年)
- 平成 29 年度 (2017) 「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」10 周年記念誌発行
- 平成 30 年度 (2018) 第 11 回「新川和江賞～未来をひらく詩のコンクール～」開催
●新川和江賞：「あっ来た。ヤモリ」 永井 心海 (山川小学校 2 年)

—結城市民の歌—

新川 和江 作詞

1. おはよう結城 わたしたちの市(まち)
むらさきの筑波のみねから
太陽ののぼる^{まち}市です
鬼怒川の流れのほとり
千年の昔も今も
娘らがはた織る音の
高らかにひびく市です
名にし負うつむぎのふるさと結城
2. こんにちは結城 わたしたちの市(まち)
旅びとも歴史をたずねて
おとずれる城下町です
いにしへの文化の上に
あたらしい未来をひらく
ひとびとが心寄せ合い
すこやかに暮す市です
かぎりなく伸びゆくふるさと結城
3. こんばんは結城 わたしたちの市(まち)
はつ夏はあの道この道
桐の花におう市です
桑の実にくちびる染めて
幼い日あそんだ友が
祭りには胸はずませて
遠くから帰る市です
なつかしい灯ともすふるさと結城

ことばはいつ 詩となるのであろう
猿に噛みくだかれた木の實が
むろの中で年月を経て酒となるように
夜ふけに草をしめらせたり露が
あけがた葉末で玉となるように

新川和子

花の名

新川和江

もも

ゆきやなぎ

みつばつつじ

花の名をいうときには

この春やつと

ひらがなを覚^{おぼ}えた^{おぼ}ち^{おぼ}い^{おぼ}さ^{おぼ}な妹が

やわらかな鉛筆^{えんぴつ}で

一字書いては

うれしげににっこりするように

わたしは発音^{はつおん}するのです

やはり ひらがなで

えにしだ

こぶし はなみずき

そして さくら……

